

医療フォーラム、 シッコ上映会に参加して

結ぶ会代表 松山 毅

去る4月14日および25日に民主党東京都第3区総支部主催で、どうなの？ わたしたちの健康
医療フォーラムとシッコ上映会が大井町「きゅりあん」で行われましたので報告します。

◆どうなの？わたしたちの健康 医療フォーラム

民主党松原仁衆議院議員、都病院職員 中田孝行さん、淑徳大学准教授 結城康博さん、と結ぶ会から私と崎村茂久さんが、壇上から発言いたしました。議論の内容は、今の医療の問題を、様々な観点から指摘したものでした。要約しますと、

- 1) **医師不足**：医師過剰と言う誤った認識のもと、医学部の定員が減らされている。意味のないルール、過剰な経済観念の導入により、医療が硬直化し、小児科、産科医、麻酔科、外科医まで不足し、日常医療ですら停滞している。勤務医、開業医の区別なく医師は疲弊している。
- 2) **病院不足**：昭和60年に医療法改正され、医療圏あたりのベッド数が規定されるようになったが、それを保証する仕組みはない。小泉内閣での医療法の強行採決以降、病床を減らす為の負担、締め付けが2012年まで予定されている。
- 3) **財 源**：健康保険を維持する為に工夫は必要だが、今の制度でそれが果たせるか疑問。後期高齢者医療において、個人徴収となり、同じ世帯で複数の制度が適用される無駄、矛盾。高齢者が負担しても、全体から見れば少額。税金の特定財源の一部でもまわせば良い事。金で医療を窮屈にして医療制度と言えるのか？
- 4) **制度の非効率性(国際比較)**：ドイツではどの保険に入るかは基本的に自由。保険者間での競争もあり、効率的。しかし、同時に社会保障を大切にしている。低所得者が公的保障を得る事で、消費行動をなし、経済の活性化を担うため、弱者救済は自由経済の国では必要不可欠な仕組みと認識されている。我が国はその正反対である。と、いうことでした。松原議員と総合司会の馬場裕子都議会議員からは、自民党が強行採決により実現された医療制度改悪を阻止し、国民、都民の目線を重視した医療を目指す決意が語られました。

◆シッコ上映会

シッコとは、病人、変人、狂人等を表すスラング。マイケルムーア監督のこの映画は、米国の病んだ医療制度についてのドキュメンタリーです。国民皆保険の存在しない米国では、人々が高い保険料を払い、保険会社の指定したメニュー通りの医療しか受けられない。貧しい人はもちろんであるが、中流階級の人であっても、ひとたび大病にかかれば、死か破産を受け入れなければならない。これは、ニクソン政権の時に出来上がった民間の力を活用した医療制度です。一方欧州では、社会保障の一環として、殆どの国民が十分な医療を何の疑問もなく享受している。この映画は超大国のこの悲劇をユーモアもってあぶり出しております。印象的であったのは、9.11に命を賭して活躍した消防士達が、重い呼吸器障害の後遺症を残しているにも関わらず、米国政府は何の手当もしてくれず、民間保険による高額な医療を受ける事が出来ない事。その彼らがキューバをたずね、十分な医療を、後進国、敵対国から受ける場面です。人として扱われた、と彼らは涙しておりました。上映前には、民主党鈴木寛参議院議員が民主党の医療政策について説明してくれました。米国の二の舞にならないように、民主党にぜひ頑張ってくださいと思います。映画は現在レンタル可能です。ぜひ皆様もご覧ください。



都議会議員 **ばば ゆうこ**
馬場裕子

都政報告
街頭報告会
20年12月2日(火)
21年 2月2日(月)
JR大井町駅前
16時から

新銀行東京
総会1000名平均が満席だ?

**都民の税金は
都民のために!**

民主党

都政報告会

のポスターができました。

貼付にご協力お願い申し上げます。

街頭報告会

平成20年12月2日(火)

平成21年 2月2日(月)

JR大井町駅前 16時から

